

第二次世界大戦を経て

古堅中学校 三年 四組 比嘉 捺乃

一九四五四月一日アメリカ軍が沖縄県読谷村の渡具知、現在の渡具知ビーチに上陸しました。読谷村民ふくめ沖縄県民の多くは、後に沖縄戦の犠牲になるのです。

日本という国の中で地上戦がおこなわれた県は沖縄県だけです。戦争の時の話を祖父に聞いてみました。戦争がおこなわれていた時、祖父は、今の私たちより幼かったそうです。祖父の父は、兵隊として、兄は特攻隊として戦争へ行き祖父は母と弟そして妹と北部のほうへ逃げたそうです。私は祖父に、「何でチビチリガマやシムクガマに行かなかつたの。」と聞きました。祖父は、「その時とはとにかく北へ逃げなさいって近所の人達が言っていたから。」と言っていました。祖父達四人は、逃げながら道にはえている雑草など食べれる物はとにかく食べていたそうです。

同じ事も考える人達も多く雑草などもすぐなくなってしまうたそうです。祖父の父と妹は戦時中に亡くなってしまったそうです。今は亡き父と妹に対して祖父がどう思っているか私たちにはわかりません。でも父と妹を失った時祖父は悲しかったと思います。沖縄いえ第二次世界大戦では多くの尊い命を失いました。今は亡き妹の写真をながらも祖父は笑っていました。でも目の奥からこぼれ落ちそうな涙をためていたのを見ました。初めて見た祖父の悲しい笑顔。私は一生忘れないでしょう。

今、日本だけじゃなく世界中が百年に一度の大不況です。こんな時こそ戦争がこりやすいのです。現に、唯一日本を守っている法律。非核三原則や戦争放棄などを見直そうという声も上がっています。もちろんそれは、国民がそのままがいいと言えばそのままになります。国民、つまり私達が国を作っているのですから、こんな大不況でも私達が国を

明るくしていけば、戦争なんてものはおこらないでしょう。私達国民がしっかりして、政治家に流されたりしななければ戦争はおきないのです。私達はまだ中学生、未成年なので選挙などに参加する事はできません。でも選挙に行ってももらう為にポスターなども描けるし、ホームステイといって外国の人達と交流もできます。私達には、残された時間がたくさんあるので戦争について調べてみたり、戦争であった真実を語りついで行きたいです。

もうあんな悲惨な戦争は二度としない。もう尊い命を失い炊くな。その気持ちを大切に、みなさんで本当の平和を作っていきましょう。世界中が全ての国が戦争放棄しますように。二度と戦争がおこらないように。